

自分発見 自分に挑戦 体験活動

神石高原町立豊松小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 勤労生産

体験活動場所 江の川カヌー公園さくぎ

【学校紹介】

○ 本校は、岡山県に隣接する県東部に位置している。本校から福山東 IC まで約 50 km、東城 IC まで約 30 km の位置にある。標高は 500 m ほどで、中心部にそびえたつ米見山（663 m）には紙ヒコーキタワーがあり全国から人々が訪れている。

本校は、平成 21 年度・22 年度の 2 年間、「文部科学省委嘱事業 道徳教育実践研究事業 広島県推進指定校」となり道徳教育を推進してきた。研究テーマは、『郷土のよさを生かし、豊かな人間力をはぐくむ道徳教育のあり方』である。ここ豊松は、地域を愛し誇りをもつ人が様々な場面で活躍し、伝統や文化が強く根付いている。家庭や地域との連携をより密にし、郷土のひと・もの・ことにふれる体験をもとに、地域の素材を教材化して授業を展開していくことで、ふるさとに愛着を感じ、よりよい生き方を考える子どもが育つと考え、地域教材の開発に取り組んできている。



学校外観

○校長名：加藤 久恵

○児童数（学級数）：66名（7学級）

○所在地：神石郡神石高原町下豊松5323

○電話番号：0847-84-2011

○URL：<http://www11.ocn.ne.jp/~toyosyo/>

【体験活動のねらい】

- 他地域の人との交流を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。
- 自分のよさや友だちのよさを発見する。
- 何事にも挑戦しようとする気持ちを養う。
- 何事も最後までやりきる態度を養う。
- 感謝の気持ちを育む。
- 協力することの大切さを味わわせる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
5月 ～ 7月	事前学習 <ul style="list-style-type: none">・体験活動の概要について・集団生活におけるルールやマナーについて・主題名「自分の役割に向かって」4-(3) 役割・責任・調理実習「野菜サラダづくり」・事前調べ学習・活動目標の決定・班編成、役割分担決め	13	総合的な学習の時間 学級活動 道徳 家庭	学校	担任

7月	集団宿泊活動（3泊4日） ・常清滝，殿敷見学 ・しいたけ狩り体験 ・食事作り体験 ・カヌー体験，沢登り体験 ・こんにゃく作り体験 ・アスパラ収穫体験 ・地元小学校との交流 ・奉仕体験	24	学校行事 総合的な学習の時間	カヌー公園 さくぎ	学校職員 指導員
9月 ～ 11月	事後学習 ・お礼状の作成 ・活動のまとめ ・成果発表会の計画，準備 ・主題名「自然への思い」 3－（2）自然愛 ・これからの自分にできること	14	総合的な学習の時間 学級活動 道徳	学校	担任
11月	成果発表会	4	学校行事	学校	担任

【体験活動の概要】

○カヌー体験

施設の指導員の指導のもと，カヌー体験を行う。児童全員がカヌーは初めてであった。事前の調査では，児童が今回の体験活動の中で一番楽しみにしている活動であり，意欲の高まりが見られた。

まず，カヌー体験をするにあたっての，安全面での注意事項を学び，安全具を身につけ，基本となるオールの扱い方について習った。カヌーに乗り込んだ児童は，前後左右への進み方や転覆した際の脱出の方法について指導を受けた後，体験をしていった。児童の中には，思う方向に進まず悪戦苦闘しているものもいた。事前に，自分の目標を掲げ，その目標達成に向けて活動した。



カヌー体験

～児童の感想より～

「まっすぐ漕げるようにという目標を立てたが，なかなか思うように進まなかった。」

「初めての体験で不安が大きかったが，頑張って挑戦できた。」

「転覆した時，びっくりしたけど，言われたとおりに体を動かしたら，脱出できた。」

「初めてのことに挑戦して，ちょっと勇気が持てた。」

○食事作り体験（交流体験）

夕食3回，朝食2回の食事作り体験をする。地元の3名の方に教わりながら，毎回違うメニューに挑戦した。事前学習として，家庭科の時間に調理実習をしたほか，児童全員が家庭での調理経験があった。



地域の方との食事づくり

この食事作り体験では、食事を作るだけでなく、教えてくださる方々とふれ合うことで、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的とした。

毎回の食事づくりでは、メニューをもとに見通しをたて、食材の準備、調理、盛りつけと、互いに協力したり、教えてくださる地域の方に尋ねたりしながら作業を進めていった。食事後の後片付けも自分たちの力でやりきった。活動への取組み方には個人差もあったが、お互い協力しながら活動をすることができた。

～児童の感想より～

「家でもよくやっているのので、そのことを生かしながら作ることができた。」

「分かりやすく教えていただいて、楽しく作ることができた。」

「工夫した味のつけかたを教えていただいて参考になった。家でもやって見ようと思った。」

「自分で作って食べたので、おいしかった。」

○奉仕活動

お世話になった活動場所に感謝の気持ちを込めて、奉仕活動を行う。敷地内の草取りをしたり、各班に分かれて袋を片手にゴミ拾いをしたりした。4日間の日程の最後に行った活動であり、中には疲れた様子の児童もいたが、意欲的に空き缶や空き瓶、ナイロンの袋等のゴミを見つけては拾い集めていた。奉仕活動に対する意識を高めることができた。



奉仕活動

～児童の感想より～

「思ったよりもたくさんのゴミが落ちていて、きれいにすることができて気持ちよかった。」

「疲れていてしんどかったけど、きれいにするといい気分だった。」

【体験活動の効果を高める事後学習】

○国語「お礼状を書こう」

「相手や目的を意識しながら、内容を整理して書く」ことをねらいとし、体験活動でお世話になった人たちにお礼状を書くという活動を設定した。児童には、感謝の気持ちだけでなく、自分が成長したと思う部分についても記すように留意させた。

○学校行事「運動会」

運動会の係活動では、体験活動で高まった役割や責任に対する意識や仲間と協力してやりきった成功体験を想起させながら活動させた。一人一人の力が大きな力となり、技を作り上げていく組体操の指導でも、宿泊体験と関連させながら「協力」や「我慢」「思いやり」といった心の成長を意識させるよう留意した。

○総合的な学習の時間「活動のまとめをして発表しよう」

「体験したことや思ったことが、相手にしっかりと伝わるようにまとめる」ことを目標に言語活動を設定した。まとめたものは成果発表会で発表（表現）するというゴールも意識させた。まとめの作成に当たっては、自分の成長やこれからの自分について考える場であることを児童にも意識させながら活動を進めた。

【交流先や施設等との連携】

- 事前の現地下見において体験施設の担当者と打ち合わせを行う。
- 活動プログラムの作成に当たって、学校、施設、指導者間で協議し調整を図る。
- 活動内容や指導等について事前確認を行う。
- 体験地域での交流相手の選定や連絡では、体験施設に協力を依頼した。
- 体験活動中も、活動内容や計画の確認を常に行う。
- 体験活動後、記録写真等の提供を依頼する。

【評価の工夫】

- 振り返りシートをもとに、一つ一つの活動に対して「分かったこと・頑張ったこと・心に残ったこと」を記入していくことを積み重ねた。
- 1日の活動を通して、「挑戦・協力・身についたこと・あいさつ・ふれ合い」の視点で自己評価をさせ、体験活動の目標達成に向けて、意識づけを行った。
- 自己を振り返る評価と合わせて、友だちのよさや変容を見ていく評価も取り入れ、相互に高め合うことを意識させた。

<p>各体験ふりかえりシート【7月26日（月）】</p> <p>☆常清滝見学 （分かったこと・頑張ったこと・心に残ったこと）</p> <p>一句『 』</p> <p>☆しいたけ狩り体験 （分かったこと・頑張ったこと・心に残ったこと）</p> <p>一句『 』</p>	<p>1日目のまとめ 26日（月）</p> <p>【・とてもよい…4 ・よい…3 ・あまりよくない…2 ・よくない…1】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">こ う 目</th> <th style="text-align: center;">4</th> <th style="text-align: center;">3</th> <th style="text-align: center;">2</th> <th style="text-align: center;">1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>何事にも挑戦できましたか？</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>みんなと協力できましたか？</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>どんなことが身につきましたか？</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>出会った人にあいさつができましたか？</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域の人々とふれ合うことができましたか？</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>楽しい1日でしたか？</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	こ う 目	4	3	2	1	何事にも挑戦できましたか？					みんなと協力できましたか？					どんなことが身につきましたか？					出会った人にあいさつができましたか？					地域の人々とふれ合うことができましたか？					楽しい1日でしたか？				
こ う 目	4	3	2	1																																
何事にも挑戦できましたか？																																				
みんなと協力できましたか？																																				
どんなことが身につきましたか？																																				
出会った人にあいさつができましたか？																																				
地域の人々とふれ合うことができましたか？																																				
楽しい1日でしたか？																																				

【安全面の配慮事項】

- 事前に現地に下見に出かけ、施設の様子や活動場所の把握を行う。
- 活動内容は、児童の負担になり過ぎないように、施設側と相談し、ゆとりのある内容にした。（午前1，午後1） 夜は、一日の反省等にあてられるようにした。
- 沢登り体験については、コースの安全を優先的に考え、安全を優先した行動計画を設定した。また、活動直前に降った集中豪雨による増水があったため、安全に活動できる行程へと変更して実施した。
- 熱中症対策として、スポーツドリンクの準備、また、お茶をわかし児童に持たせ、こまめに水分補給をさせた。また、帽子の着用も呼びかけた。
- 食事作り体験においては、手洗い等を含め衛生面に十分配慮した。
- 活動中は児童の体調の変化に留意し、こまめに健康観察をした。

【体験活動の成果と課題】

- 活動計画にゆとりを持たせたことで、活動に追われることなく、一つ一つの体験をしっかりとやりきることができ、充実した内容になった。
- 活動ごとに地域の方々とふれ合う中で、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。
- 自分のことは自分で行い、また、友だちと助け合って協力することの大切さを学ぶことができた。
- 体験活動後と成果発表会後に実施した保護者アンケートより
 - 「手伝いを進んでするようになった。」
 - 「言われなくても動くことが多くなった。」
 - 「成果発表会では、自分達が学び身につけたことをしっかりと表現できて大成功でよかった。」
- 宿泊体験活動が、児童にとって自分のことを見つめ直したり、友だちのことを再発見したりするよい機会となった。
- 体験活動で身につけた態度や意識を、これからの普段の生活の中でいかに継続させていくかが課題である。

